

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-16588

(43)公開日 平成5年(1993)1月26日

(51)Int.Cl.⁵

B 4 2 F 13/22

識別記号

庁内整理番号

9110-2C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-21403
実願平2-92423の変更
(22)出願日 平成2年(1990)9月4日

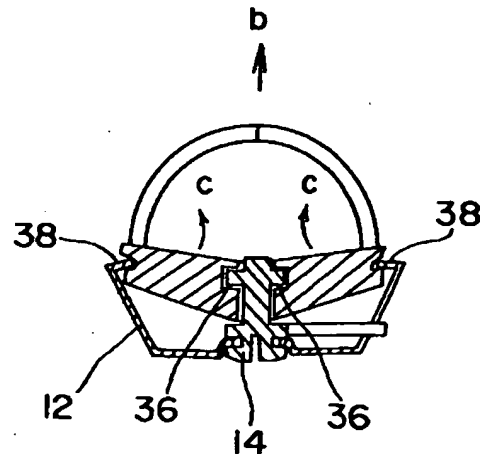
(71)出願人 000164184
金田 克己
東京都大田区中央2丁目9番15号
(72)発明者 金田 克己
東京都大田区中央2丁目9番15号
(74)代理人 弁理士 倉内 基弘 (外1名)

(54)【発明の名称】 バインダのロック装置

(57)【要約】

【目的】 多量の文書等を閉じ込んでも輸送時等でのそこへの外部的衝撃によっては開かない錠止手段を具備する新規なバインダ綴具構造を提供する事。

【構成】 2つの長手方向部材30及びこれら長手方向部材を支持するための外側支持手段12とを具備するバインダ綴具に於て、前記外側支持手段及び前記長手方向部材に、対応する第1及び第2の2つの孔14、34を夫々設け、長手方向部材に設けた第2の孔34には溝36を形成し、該溝と選択的に係入し得る突出部24及びレバー手段26を具備する錠止部材10が前記第2の孔を貫いて挿入され且つ前記第1の孔に回転自在に支承される。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 弾発的に螺番作動し得るように組合わされた2つの長手方向部材と、該2つの長手方向部材を螺番作動し得るように支持するための外側支持手段とを具備するバインダ綴具に於て、前記外側支持手段には第1の孔が形成され、一方、前記長手方向部材にはその螺番部分に沿って、前記第1の孔に対応する位置に同様に第2の孔が形成され、
前記第2の孔の壁部分には部分的に一般に水平方向にて単一或は複数の溝を形成し、
前記第2の孔の溝と選択的に係入し得る少なくとも1つの突出部及びレバー手段を具備する錠止部材を、前記第2の孔を貫いて挿入し且つ前記第1の孔に回転自在に支承したことを特徴とする前記バインダ綴具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は螺番式のバインダ綴具に関し、詳しくは閉じたバインダ綴具の開放を錠止する為の構造に関する。

【0002】

【従来技術】図10には、従来から使用される螺番式のバインダ綴具2が例示される。前記綴具2は一般に、表紙部材（図示せず）の裏側に固定する為及び螺番動作を弾発的に行わせる為の支持部材或は平ばね部材4（図11参照）と、該平ばね部材4によって弾発的に螺番動作するようになっている2つの長手方向部材6及び8とによって構成され、前記2つの長手方向部材6及び8の夫々には、それらが閉じた場合に相互に嵌合し、複数の綴環10を形成する為の複数の半環状部材が設けられ、また前記2つの長手方向部材6及び8の長手方向の各端部にはバインダ綴具2を開く為の、実質同一形状の指掛け部12及び14が夫々設けられている。前記構成のバインダ綴具2は、前記長手方向の各端部に設けた指掛け部12及び14を指等によって相互方向に引寄せることによって開かれ、そして、開いた状態の前記半環状部材をやはり指等によって相互方向に引寄せることによって閉じられるようになっている。然しながら、前記バインダ綴具2に多量の文書等を閉じ込むと、その重量が前記指掛け部12及び14を開く負荷と化すことによって、前記バインダ綴具2は、輸送時等に於てそこに外部的衝撃が加えられると、それが例え僅かなものであっても、平ばね部材4のばね偏倚力に抗して開いてしまい、せっかく綴込んだ文書等が散乱してしまう事態がしばしば発生する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】解決しようとする課題は、多量の文書等を閉じ込んでも輸送時等でのそこへの外部的衝撃によっては開かない錠止手段を具備する新規なバインダ綴具構造を提供する事である。

【0004】

2

【課題を解決するための手段】本発明に従えば、弾発的に螺番作動し得るように組合わされた2つの長手方向部材と、該2つの長手方向部材を螺番作動し得るように支持するための外側支持手段とを具備するバインダ綴具に於て、前記外側支持手段には第1の孔が形成され、一方、前記長手方向部材にはその螺番部分に沿って、前記第1の孔に対応する位置に同様に第2の孔が形成され、前記第2の孔の壁部分には部分的に一般に水平方向にて単一或は複数の溝を形成し、前記第2の孔の溝と選択的に係入し得る少なくとも1つの突出部及びレバー手段を具備する錠止部材を、前記第2の孔を貫いて挿入し且つ前記第1の孔に回転自在に支承したことを特徴とする前記バインダ綴具が提供される。

【0005】

【実施例】以下に、本発明を図1から図4を参照して詳しく説明する。図1には本発明に従う錠止体10が例示される。該錠止体10は一般に円筒形状を有し、その下方端部にはバインダ綴具の外側支持手段、即ち平ばね部材12に形成された第1の孔、即ち孔14に弾発的に嵌入し、次いでそこに廻動自在に支承される支承手段16が形成されている。該支承手段16は一般に、図示される如く上方フランジ部分18及び下方フランジ部分20と、その間の溝部分22によって構成される。また上方端部に接近した位置には一対の突出部分24、24が形成される。該突出部分24は概略前記フランジ部分の長さ分だけ、半径方向外側に互いに反対方向に向って突設される。一方、前記上方フランジ部分18にはが錠止体をその軸中心に廻動させるためのレバー手段26が一体的に形成される。

【0006】図2から図4には前記錠止体10をバインダ綴具28に取付けた状態及びその作働状態が示される。本発明に於ては、前記バインダ綴具を構成する2本の長手方向部材30及び32の螺番作働部分に沿って形成された第2の孔、即ち孔34には第3図及び4図に最も良く示されるように、部分的に一般に水平な溝36が単数或は複数形成される。該溝36は、前記錠止体10の突出部分24、24が図2に示されるように2本の長手方向部材30、30と直交する状態の時には前記突出部分24と実質的にぴったりと係合し、そして錠止体10が、図2に矢印aで示されるように、レバー手段26によって概略90°廻動され、それによって2つの突出部分24が前記2本の長手方向部材と平行になる位置に持ち来たされた場合には、前記溝36から外れるような寸法形状及び位置に適切に形成される。

【0007】こうした構成により、図3に示される如く、前記溝36と各突出部分24とが互いに係合する状態では、2本の長手方向部材30、30は先に述べた如く、バインダ綴具に大量の重い文書等が綴込まれ、その状態で何らかの外部的な衝撃を受けそれによって矢印Cで示される方向に大きな負荷が生じたとしても、2本の

3

長手方向部材の、位置38を支点としての矢印C方向への運動は物理的に阻止され得る。また、必要があってバインダ綴具を開く場合には、先に述べた如くレバー手段26を図2に示されるように矢印a方向に概略90°廻動すれば、溝36と各突出部分24との係合は解除され、それによって図4のようにバインダ綴具を容易に開放することが可能である。

【0008】図5から図9には本発明の別態様の錠止体100が例示される。該錠止体100は、前記錠止体10と同様、バインダ綴具の外側支持手段、即ち平ばね部材に形成された孔に弾発的に嵌入させそこに支承するための支承手段160並びに該錠止体100を、前記孔に嵌入支承した状態で制限範囲に於て廻動させるためのレバー手段260を具備している。しかしながら該錠止体100に於ては、前記レバー手段260から上の部分は図示されるように、円柱をその長手方向に沿った平行位置で部分的に切除した如き形状を有している。この場合、前記錠止体10の突出部分24に対応する位置には夫々一般に平行な複数の溝300が形成される。これらの溝300は、バインダ綴具28'の2本の長手方向部材30'、30'に、夫々先の具体例と同様の態様で部分的に形成された、対応形状の溝310と係脱することによって前記錠止体10と同様の効果を奏し得るものである。好ましくは前記溝300には、図9に例示されるように上方に向って僅かにテーパ付けし、一方、前記溝310にはこれと対応する下方テーパを付け得、これによって前述の如き錠止作用を更に高度のものと為し得る。以上本発明を具体例を参照して説明したが、本発明の内で多くの変更を成し得ることを理解されたい。

【0009】

【発明の効果】本発明のバインダ綴具は前記特徴によって、綴込んだ紙葉がかなり厚くなり、それによって綴込み紙葉の重量がかなり大きくなった場合でさえも、そこに少々の外部的衝撃が加えられた程度では簡単には開放

4

することがなくなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の錠止体の斜視図。

【図2】図1の本発明の錠止体をバインダ綴具に取付けた状態を示す平面図。

【図3】バインダ綴具を閉じた状態における、本発明の錠止体の錠止作用を例示する断面図。

【図4】本発明の錠止体の錠止作用を解除し、バインダ綴具を開いた状態を示す断面図。

【図5】本発明の錠止体の別態様を例示する斜視図。

【図6】図5の錠止体をバインダ綴具に取付け、バインダ綴具を開放し得るよう位置付けした状態を示す平面図。

【図7】図5の錠止体を使用しての、図3と同様の断面図。

【図8】図5の錠止体を使用しての、図4と同様の断面図。

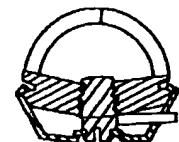
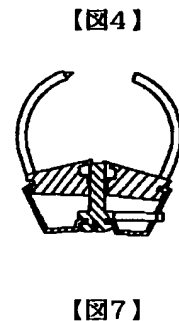
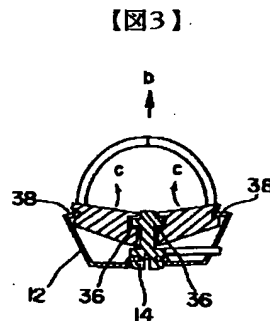
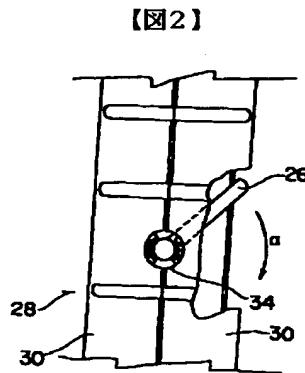
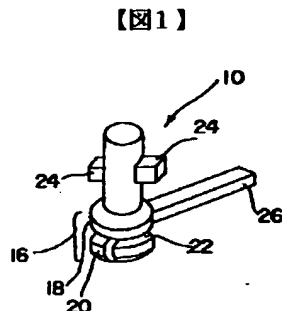
【図9】図5の錠止体の正面図。

【図10】従来から使用される蝶番式のバインダ綴具の斜視図。

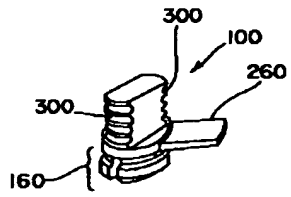
【図11】図10を線A-Aで切断した断面図。

【符号の説明】

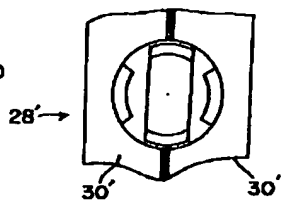
- 10：錠止体
- 12：平ばね部材
- 14：第1の孔
- 16：支承手段
- 18：上方フランジ部分
- 20：下方フランジ部分
- 24：突出部分
- 28：バインダ綴具
- 30：長手方向部材
- 32：長手方向部材
- 34：第2の孔
- 36：溝



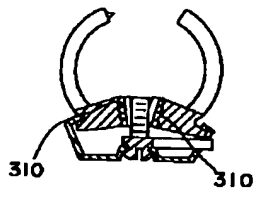
【図5】



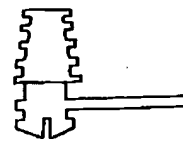
【図6】



【図8】



【図9】



【図11】



【図10】

